

## 女性の健康に関する研究について

### 1. 女性外来と千葉県大規模コホート調査を基盤とした性差を考慮した生活習慣病対策の研究(循環器等生活習慣病対策総合研究、研究代表者:天野恵子、平成 20~22 年度)

#### 1) 概要

- ① 生活習慣病等の発症・進展の性差に関する情報の収集とデータベース化する
- ② 性差を考慮した保健指導の実効性の検討(実証研究)
- ③ 性差発現に関するエビデンスの確立(基礎・臨床研究)
  - ア) 薬物動態力学における性差発現機構の解明
  - イ) 生活習慣病が血管内皮機能に与える性差の解明

#### 2) 期待される効果

- ① 医療者等への疾患の性差に関する情報の提供
- ② 効果的・効率的な保健指導の確立(性差を考慮する保健指導の確立)
- ③ テーラーメイド医療の推進のための基礎的根拠の提供
  - ア) 医薬品の効果・副作用における性差の発現分野におけるエビデンス
  - イ) 生活習慣病の血管内皮細胞への影響の性差に関するエビデンス

### 2. 性差を加味した女性健康支援のための科学的根拠の構築と女性外来の確立(疾病・障害対策研究分野子ども家庭総合研究、主任研究者:天野恵子、平成 17~19 年度)

#### 1) 概要

- ① 性差を加味した女性医療、健康支援のための科学的根拠の構築
- ② 千葉県からの予算補助を受け女性外来を開設する 10 病院における受診者、病院長、担当医師・看護師を対象とした外部評価調査
- ③ 女性外来の実態ならびに問題点の解析
- ④ SF-36, STAI, SRQD を用い、女性外来における医療効果の評価
- ⑤ 臨床の現場から、微小血管狭心症の実態、高齢者の内分泌・代謝、骨粗しょう症、物忘れ等における性差、小児における臨床検査値の性差開始年齢の同定、循環器危険因子の性差について調査・検討
- ⑥ ラットにおける PPAR $\gamma$  アゴニストの薬物動態の性差の検討

#### 2) 結果

- ・女性外来における問題解決度は高く、患者の満足度、再受診希望率も極めて高かった。
- ・精神症状に苦痛をもつ女性たちの改善に女性外来や有効であった
- ・女性外来における医療介入効果も極めて高いことが、SF-36, SRQD, STAI を用いての経過観察により明らかとなった。
- ・微小血管狭心症の実態、高齢者の内分泌・代謝、骨粗しょう症、物忘れ等における性差、小児における臨床検査値の性差開始年齢の同定、循環器危険因子の性差について明らかにした。

### 3. 女性の各ライフステージに応じた健康支援システムの確立に向けた総合的研究

(疾病・障害対策研究分野子ども家庭総合研究、主任研究者：寺川直樹、分担研究者：水沼英樹他、平成 15-16 年)

#### 1) 概要

ライフステージによる女性の自覚症状の変化（月経関連症状）の頻度を明らかにするため病院受信者を対象にアンケート調査を実施した。月経関連症状を訴えた初診患者 1716 名のアンケート調査より 1 年間の推定患者数を推計した。

#### 2) 結果

一般女性が月経関連の自覚症状を訴えてすべて医療機関を受診したと仮定した場合、月経痛を訴える女性の 9.1%が子宮内膜症と、過多月経の 9.3%が子宮筋腫と、月経不順の 19.4%が卵巣機能不全と診断されることが推定された。

患者満足度の調査対象（178 例）の 7 割以上が 2 カ所以上の医療機関を受診していた。そのうちの半数以上は自身が希望して当該施設を受診しており、他院からの紹介を上回ったことから“セカンドオピニオン”のニーズが高いことが推測できた。

### 4. 女性の生活習慣と健康に関する疫学調査 -日本ナースヘルス研究 JNHS-

#### 1) 日本に在住する 25 歳以上の女性看護職を対象とした前向きコホート研究

自己式調査票を用いた郵送による調査

ベースライン調査(2001~2008.3) : 49,925 人の女性から回答

10 年間追跡調査(2 年に 1 度)への参加者 : 約 17,000 人(コホート確定作業中)

#### 2) 調査項目

- ・ 断面調査 : 生活習慣 (喫煙、飲酒、睡眠、運動、食事、等)、  
保健習慣 (検診、女性ホルモン剤、ビタミン剤、等)、  
身体状況 (身長、体重、腹囲、臀囲、検査値、等)、  
既往歴、家族歴 (両親、姉妹) などの実態把握
- ・ 経時的調査 : 生活習慣、保健習慣、身体状況の変化、  
各種健康事象への影響  
(婦人科疾患・がん・循環器疾患などの発症との関連)

#### 3) これまでの主な研究成果 : タイトルのみ

- 出生時体重および若年期の生活習慣と糖尿病との関連
- 看護職の日常生活と健康状態
- アスピリン使用状況と使用者の特徴
- 低用量ピル使用状況と使用者の特徴
- 睡眠薬服用状況と使用者の特徴
- 栄養補助剤(サプリメント)使用状況と使用者の属性
- 女性ホルモン補充療法(HRT)使用者と非使用者の特性の比較
- 閉経発来リスク因子の分析
- 主たる疾患の年齢別罹患率